



日本の良き伝統文化をつなぐ

校長 大谷 京司

グローバル社会の中で生きていく今の子どもたちが、もし他国の人に自分の国のことを紹介してほしいと言われたら、どの程度自分の言葉で説明できるでしょうか。

日々の生活から長い歴史の中で生み出された伝統文化を目の前で見たり、その人から話を聞いたり、自らも体験して感じたこと、考えたことは、大きな説得力をもって他の人に語りかけることができると思います。

日本の良き伝統文化に触れる機会を増やす中で、自国の文化に理解や誇りをもちながら、他国の文化や価値観も尊重できる次世代を育成することがとても大切だと考えています。

どんど焼き・餅つき



新学期が始まって間もない
1月11日(土)、多くの保護者
にもご協力頂き、どんど焼きと
新年の餅つきを行いました。



5月末の田植えに始まり、10月
の稲刈り、脱穀と子どもたち・保護者・教職員の

協働作業で行ってきたこともあり、皆で育てて収穫した餅米でつく餅には格別の思い入れがありました。味餅のきな粉や豚汁の味噌、さつまいもは子どもたちの手による(大豆の栽培・収穫、きな粉作り、味噌作り)もので、栄養も愛情もたくさん詰まっています。どんど焼きで自分の書初めが空に舞い上がった様子や蒸したての餅米の温かさ、餅つきの際の杵の重みなど子どもたちの感覚として染みつき、色褪せないことと思います。

どすこい大相撲七沢場所

1月29日(水)、芝田山(元横綱大乃国)部屋の力士の
浜田山さんと龍勢旺さんに来ていただき「どすこい大相撲
七沢場所」を開催しました。

また割りや四股などの基本を見せていただいた後、2人
の力士による対戦の他、四股名をつけた園児や児童 vs
力士の対戦も行われました。対戦後の子どもたちからは
「すごく強かった」「押しても押しても全然動かなかった」
などの感想が寄せられました。また、質問コーナーでは、
「実際の大相撲では女性は土俵に上がれないのか」といった鋭い質問もあり、アマチュア相撲ではそのようなことはないが、本場所では昔からそのようになっていると回答がありました。



書き初め

ペーンと張りつめた空気の中、集中して筆を運ぶ姿がとても美しく映ります。自分で選んだ四字熟語には、今年1年の思いも込められています。

書き終わって「ふうっ」と大きな息を吐き、満足げに上から改めて自分の書いた文字を眺めます。この瞬間に四字熟語の意味を無意識のうちに自分の体に染みこませている感じがします。

この時の集中力と前向きな気持ちを忘れることなく、今年も1年学校生活を充実したものにしてほしいと思います。



郷土芸能普及公演～古式消防～

江戸時代中頃から明治時代の初めまで江戸の町の消防は、鳶職といわれる建築に携わる人々によって行われていました。建築と消防の役割を担う鳶職は、「木遣」、「まとい振り」、「梯子乗り」などの技を代々伝えてきました。

1月20日(月)、厚木市古式消防保存会の方々に来ていただき、その伝統の技を見せていただきました。「木遣」は木遣唄ともいわれ、力を合わせて行う作業や

棟上げなどのお祝いの時に歌う唄です。「まとい振り」の「まとい」は町火消しに組のシンボルとして使い、これを振ることは名誉とされていたそうです。「梯子乗り」は、高い所で仕事をするための訓練や正月を祝う意味で行われてきたもので、今回6m以上もある梯子の上で様々なパフォーマンスが繰り広げられると、大きな歓声が沸き起こっていました。



凧揚げ

1月18日(土)、相模川の河川敷にて「親子ふれあい凧揚げ大会」を幼稚園と合同で実施しました。昨年度は雨で河川敷での凧揚げができなかっただけに、冬の厳しい寒さを感じる中ではありましたが、まずは実施できたことにほっとしました。



大凧あがった！

一昨年は、初等の凧はなかなか揚がらなかったこともあり、昨年、七沢に昔から伝わるせんみ凧保存会の方から、現状の凧を見ていただきながら、糸目のつける場所や骨組みの竹の太さや厚さなどについて助言をいただきました。

今回、最初のうちは、なかなか安定して揚がっている凧は少なかったのですが、しっぽを長くしてみたり、そりを強くしてみたり試行錯誤した結果、ほとんどの児童の凧が高く揚がる結果となりました。

幼稚園で制作した大凧もふんわりと大空に舞い上がり、「揚がった！揚がった！」、「初めて揚がったところを見た」など多くの声と拍手が聞かれました。

幼稚園で制作した大凧もふんわりと大空に舞い上がり、「揚がった！揚がった！」、「初めて揚がったところを見た」など多くの声と拍手が聞かれました。

